



団地内のタウンセンタービルの一室に子どもの居場所を作り、地域の高齢者が小中学生の様子を見ている。子ども達は放課後に立ち寄り、宿題をする、本を読む、玩具で遊ぶ等、それぞれ思い思いに過ごす。いつでも、大人が見守ってくれているので安心だ。

子どもの居場所づくりは、高齢者の活躍の場にもなり、世代交流が広がっている。

- 内 容 子どもの居場所「ゆうやけルーム高陽」
 - ・ 小中学生が放課後に来所して勉強や読書等をする
 - ・ スタッフと過ごす 等
- 実 施 日 週5日（月～金）16時～19時まで
- 場 所 高陽タウンセンタービル
（安佐北区亀崎1丁目）
- 開始時期 平成25年1月
- 実施主体 高陽ニュータウンまちづくり市民会議



取組のステップ



子ども達が放課後に過ごす場を

団地では、子ども達が放課後に過ごせる場所が少なく、一人で家にいたり、街角に集まるなどの光景が見られた。そこで、地域でできる子どもたちの支援等について考えるグループ「高陽ニュータウンまちづくり市民会議」が、子ども達の居場所づくりの検討を開始した。

市民会議のメンバーは町内の有志で、「この町に住み続けたいと思う町の実現」を目指して、子どもの居場所づくりのほか、お助け隊、小・中・高校生を対象にした勉強会、趣味の時間を過ごす場所の提供、思い入れのあるおもちゃの修理等の活動に取り組んでいる。

「ゆうやけルーム高陽」にあれば安心

住宅供給公社と協議を重ね、団地の中心部にある高陽タウンセンタービルの中に「ゆうやけルーム高陽」を設けることになった。毎週月曜日から金曜日の午後4時から7時まで開放している。

子ども達は、宿題をする、本を読む、部屋の中にある玩具で一緒に遊ぶなど、保護者が迎えに来るまで、思い思いに過ごしている。

スタッフは、地域の高齢者がボランティアとして従事している。いつも、見守ってくれているので子ども達は安心だ。



高齢者の活躍の場に

子ども達の居場所づくりは、スタッフとして活動するお年寄りの活躍の場にもなっている。話し相手になったり、一緒に本を読んだり、子どもと高齢者の世代交流につながっている。

工夫していること等



広報に力を入れる

新聞の折り込みチラシを発行したり、口コミなどで積極的に広報している。

軽食を用意 パン等の軽食を用意している。

課題・今後の展開

- ・ より多くの人に知ってもらい、利用者を増やす。

みんなの声



〈住民〉

- ・ 子どもが気軽に集える場所ができて良かった。
- ・ 迎えに行くのが遅くなることもあるが、融通を利かしてもらえるので助かっている。

〈主催者〉

- ・ お年寄りも楽しみにしている。居場所づくりの活動を通じて、子育て世代を支え暮らしやすい環境を作りたい。